

防犯 最新線

第11話

日進市防災ハムクラブ

アマチュア無線で通信網カバー



非常通信訓練に参加するメンバーら。コールサインはJ12ZUK=市役所駐車場で活動の問い合わせは水谷さん ☎090-8867-8040

4月9日の朝。市役所駐車場にアマチュア無線機とアンテナを積んだ車両が何台も集まり、ベスト姿のメンバーらが現れた。一台の屋根に青色回転灯と外部スピーカーを装着し、防犯を呼び掛ける広報テープの音を確認した。「準備よし。それでは各方面の避難場所を回って、災害情報を無線連絡してください」。会をまとめる水谷会長(80)の号令で、3台の車両が一斉に市内へと繰り出した。

大地震発生を想定した年度始めの非常通信訓練。市役所に予備の基地局を置き、地域を移動する車両と交信した。各地域からは「訓練、訓練」の合図に続き、「多くの住民が小学校に向かって歩いていて、道路の損壊はない」「夜まで毛布を50枚ほど追加してほしい」などの情報が次々と寄せられた。

基地局の高阪典宏さん(52)は、大量の情報に耳を澄まし、受信票の用紙に記録した。「聞きながら書いて話す。すべてが同時進行なので基地局は大変です」。訓練だが緊張感が漂う。

日進市防災ハムクラブは、平成15年10月に市内在住のアマチュア無線家(ハム)によって結成された。現在29人が登録。日進市との間で平成17年4月に「災害時の情報収集に関する協

定」を締結し、市や地域の防災訓練にも参加する。無線の活動の他に、月2回の青色パトロールも続ける。一方、東海ハムの祭典や子ども向けの科学教室にも参加しながら、無線の楽しさを伝えている。

ハム歴40年という川口弘人さん(76)は平成12年9月に起こった東海豪雨の際、ボランティア派遣の依頼を受けた。新川付近の破堤で泥まみれになった車両の山や、役場職員のぐったりした表情を目の当たりにした。「無線が頼りにされた。いざという時にはいろんなボランティアが集まる。そうした人たちを動かすための整理も大事な仕事だと実感した」と話す。

水谷さんらメンバーは願う。「助けを求める避難者の声にいたい。そのために、一人でも多くのアマチュア無線家にご協力いただきたいです」(広)



無線で交信するメンバー



おりど病院前にバスベイ完成

4月の「くるりんばす」の再編に合わせて、日進おりど病院前にバス専用の停車スペース「バスベイ」が完成しました。同病院と本市が協力して改良工事を実施。市役所と名鉄日進駅を回る循環線の運行は30分に1本のペースに倍

増しました。

大島慶久理事長は「皆さまが安心してご来院いただける環境を実現できた」と、萩野幸三市長は「今後もバスの利用で皆さまに生活範囲を広げていただきたい」とあいさつしました。

